

銀の春雨信濃に塩の道

山田真砂年

「稻」五月号「雪解川」より

信濃は海のない国なので、どこか海のあるところから塩を持ってこなくてはならない。塩を運ぶ人たちが頻繁に通つたのが塩の道である。「銀」には「しろがね」とルビが振つてある。春雨が降っている。塩の荷を背に負つた馬が数頭列をなして山道を登つて行く。厳しいがこれが日常の生活である。しろがね色に光る雨が日々の生活を荘厳しているかのようなのである。